

県内経済情勢 (平成30年10月判断)

平成30年11月1日

財務省関東財務局
千葉財務事務所

照会先
千葉財務事務所 財務課 (TEL:043-251-7213)
ホームページ <http://kantou.mof.go.jp/chiba/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある。」

項目	前回（30年7月判断）	今回（30年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある。	緩やかに回復しつつある。	→

（注）30年10月判断は、前回7月判断以降、足下（10月末）の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は改善している。

【各項目の判断】

項目	前回（30年7月判断）	今回（30年10月判断）	前回比較
個人消費	回復に向けたテンポが緩やかになっている。	回復に向けたテンポが緩やかになっている。	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある。	緩やかに持ち直しつつある。	→
雇用情勢	改善している。	改善している。	→
設備投資	30年度は増加見通しとなっている。	30年度は増加見通しとなっている。	→
企業収益	30年度は増益見通しとなっている。	30年度は増益見通しとなっている。	→
企業の景況感	「下降」超幅が縮小している。	「上昇」超に転じている。	↗
住宅建設	前年を下回っている。	前年を下回っている。	→
公共事業	前年を下回っている。	前年を下回っている。	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外経済の動向などに留意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「回復に向けたテンポが緩やかになっている。」

乗用車の新車登録届出数及びコンビニエンスストア販売額は前年を上回っているものの、百貨店・スーパー販売額は7月から9月期を総じてみると前年を下回っており、全体としては回復に向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 新型車投入効果により受注が増加し、登録台数はおおむね前年を上回って推移している。(自動車販売、中堅企業)
- 猛暑の影響で飲料が好調であったことに加え冷たいデザートに人気が出て売上に貢献した。(コンビニエンスストア、大企業)
- 化粧品等の雑貨や物産展は好調であったものの、猛暑の影響等により食料品が前年を下回った。(百貨店、大企業)
- 新規出店の効果で前年を上回る売上げとなっている。(スーパー、中堅企業)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある。」

生産を業種別にみると、鉄鋼などが減少しているものの、化学、食料品などが増加しており、全体としては緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 生産設備の故障等もあり生産量が一時的に減少したが、それも解消し8、9月は増加している。(鉄鋼、大企業)
- 自動車部品向け及び食品包装材向けの需要が堅調であり、足下ではフル生産の状況が続いている。(化学、大企業)
- 秋冬に向けて増産する計画であり、8、9月は生産量が増加している。(食料品、大企業)

■ 雇用情勢 「改善している。」

有効求人倍率は高水準となっており、新規求人数は横ばいとなっている。

(主なヒアリング結果)

- 新規出店の場合は3~4カ月前から募集をかけてようやく充足できる状況となっている。(ドラッグストア、中堅企業)
- 新規学卒者について東日本全体で採用活動を行っているが、人数確保は極めて厳しい状況となっている。(食料品、大企業)

■ 設備投資 「30年度は増加見通しとなっている。」

○ 法人企業景気予測調査(30年7~9月期調査)による30年度の設備投資計画額をみると、製造業では前年比増減率▲12.3%の減少見通し、非製造業では同17.7%の増加見通しとなっており、全規模・全産業では同14.9%の増加見通しとなっている。

- 製品の運搬作業において省人化を図るため自動運搬設備を導入する予定である。(食料品、大企業)

■ 企業収益 「30年度は増益見通しとなっている。」

○ 法人企業景気予測調査(30年7~9月期調査)による30年度の経常損益(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)をみると、製造業では前年比増減率▲3.8%の減益見通し、非製造業では同2.9%の増益見通しとなっており、全規模・全産業では同2.1%の増益見通しとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超に転じている。」

○ 法人企業景気予測調査(30年7~9月期調査)による景況判断BSIをみると、全規模・全産業で「上昇」超に転じている。30年10~12月期の先行きについては、全規模・全産業で「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている。」

○ 新設住宅着工戸数をみると、前年を下回っている。

- 土地の仕入れが難しい状況の中でも一部の区画整理事業区域での住宅需要は根強く、住宅販売は堅調である。(住宅建設、中堅企業)

■ 公共事業 「前年を下回っている。」

○ 公共工事請負金額をみると、前年を下回っている。

県内経済情勢 (平成30年10月判断)

(資料)

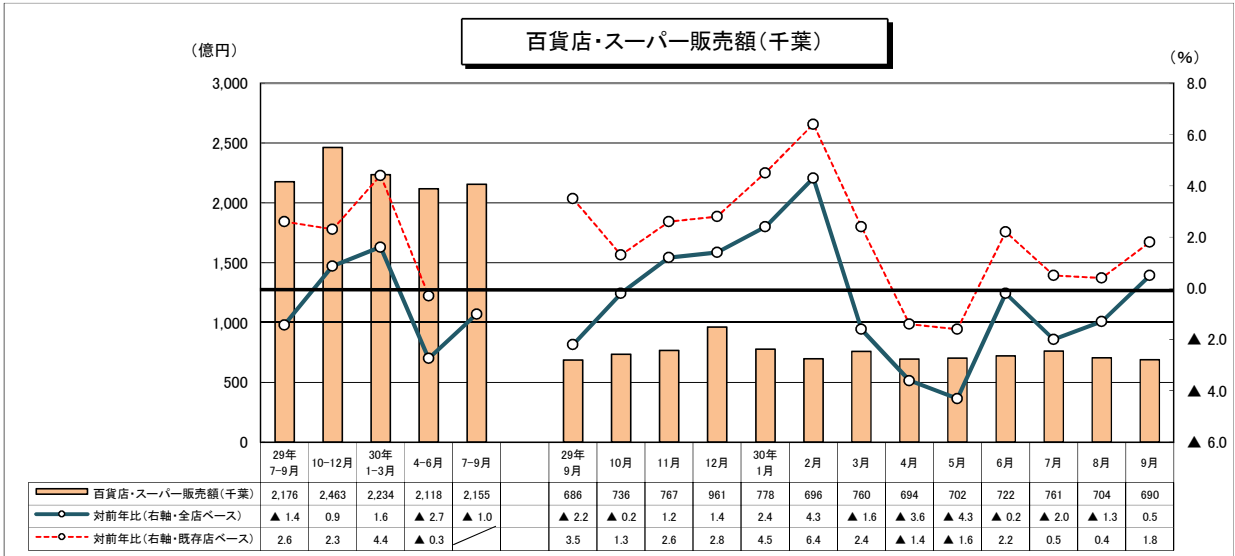
目次	(頁)
1. 個人消費	1、2
2. 生産活動	3
3. 雇用情勢	4
4. 設備投資	5
5. 企業収益	5
6. 企業の景況感	6
7. 住宅建設	6
8. 公共事業	7
9. 倒産	7

平成30年11月1日

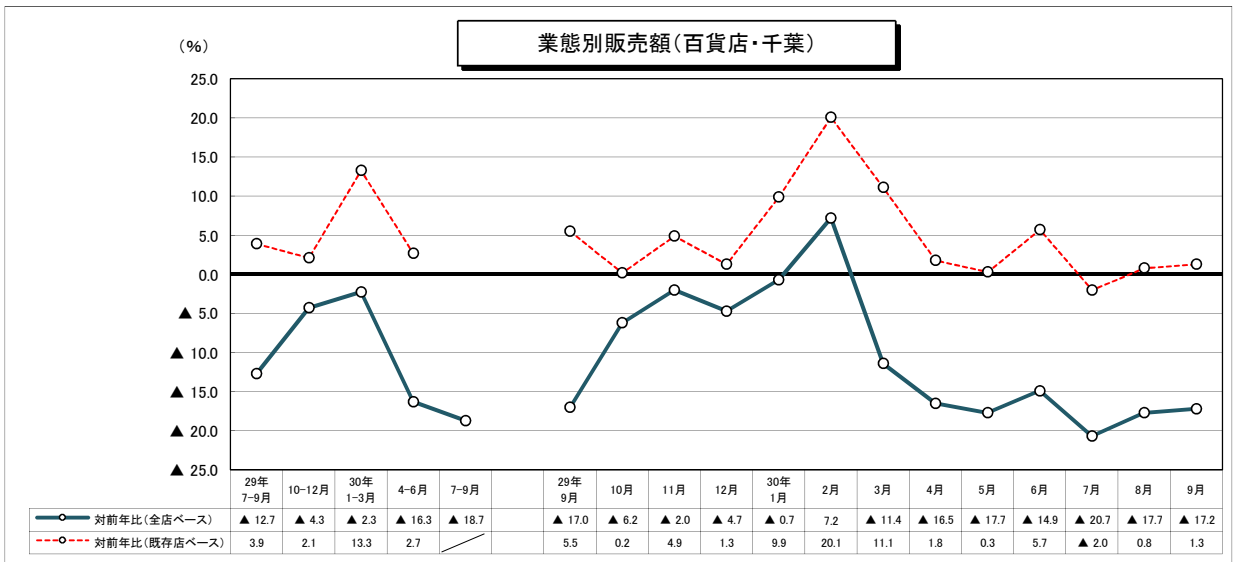
財務省関東財務局
千葉財務事務所

1. 個人消費

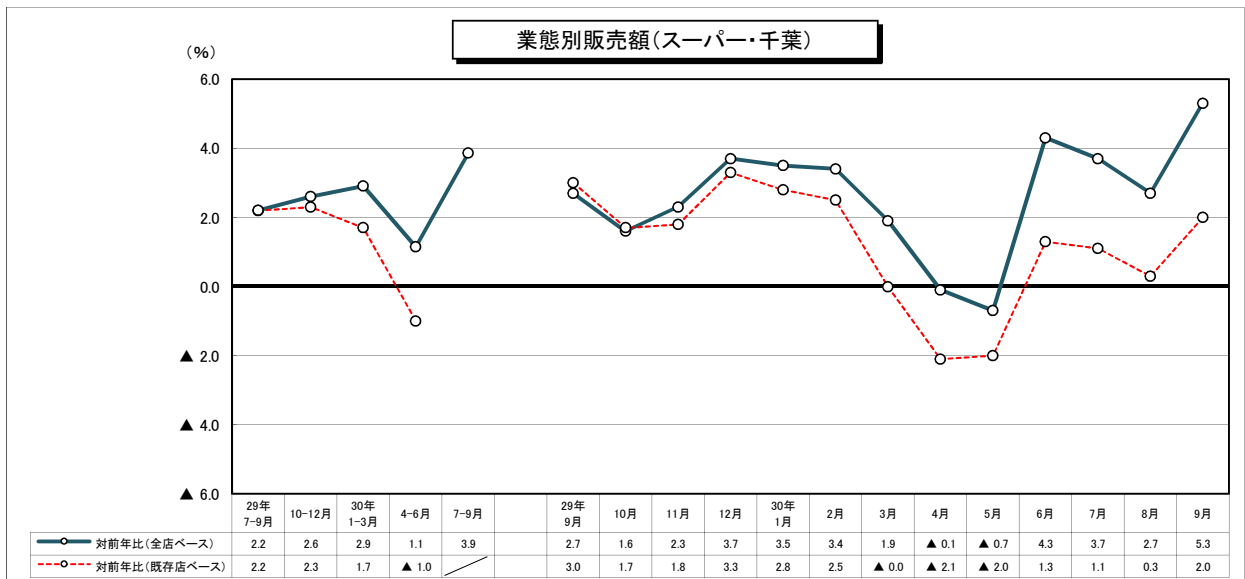
回復に向けたテンポが緩やかになっている。



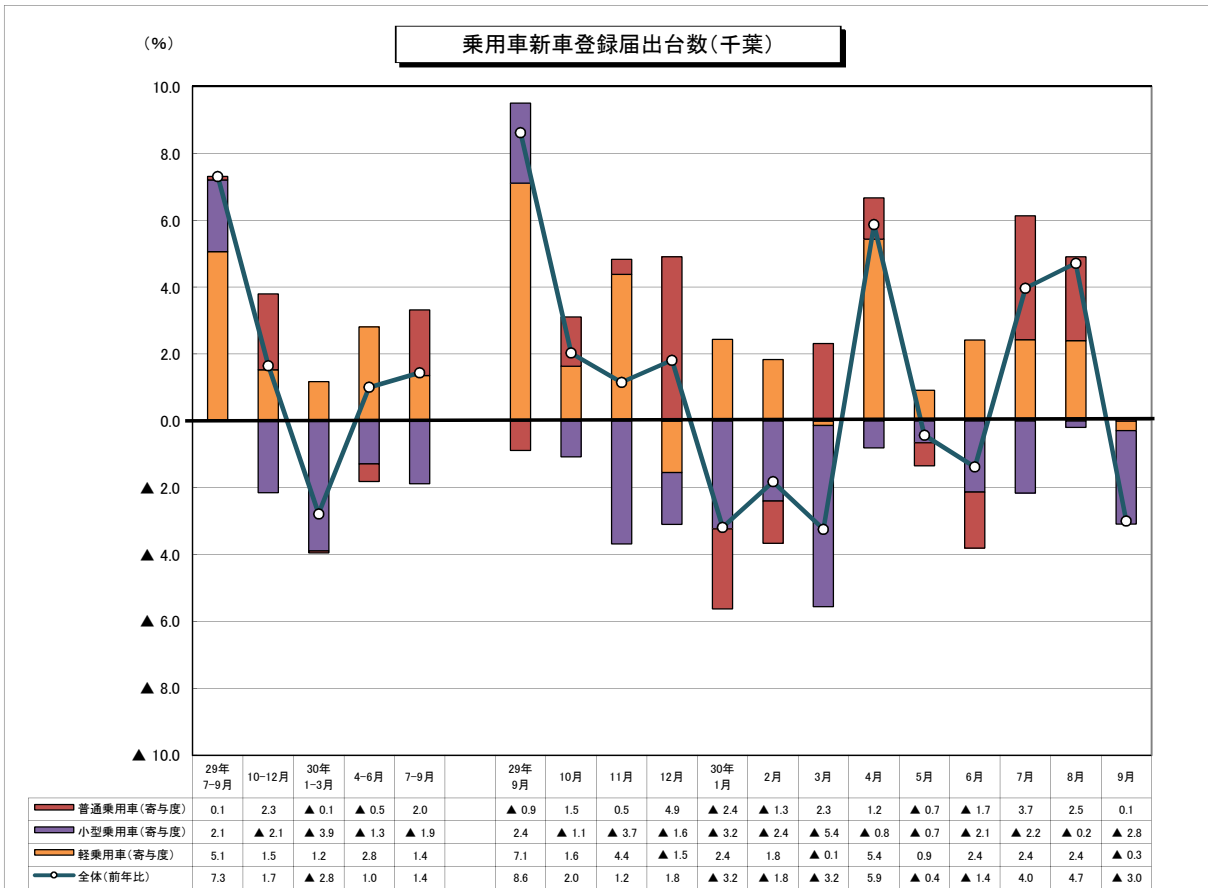
[経済産業省]



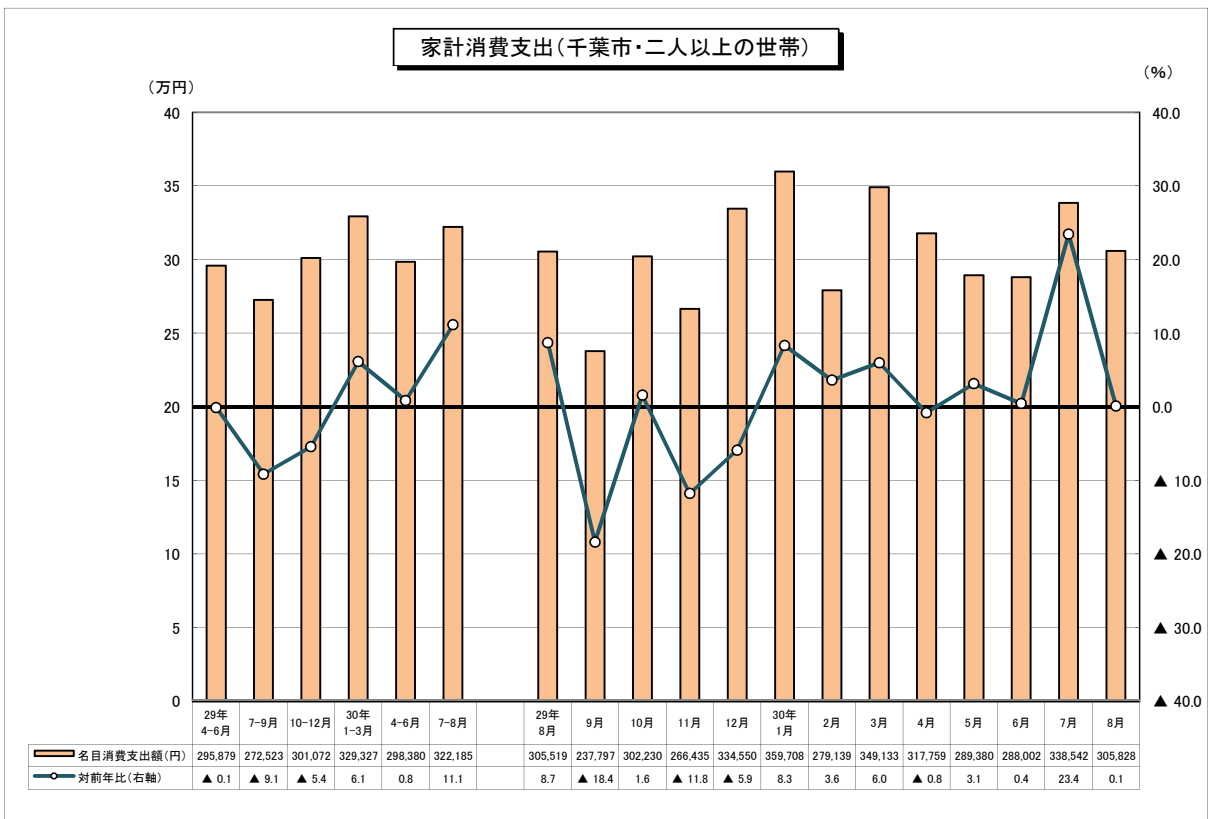
[経済産業省]



[経済産業省]



[日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会]

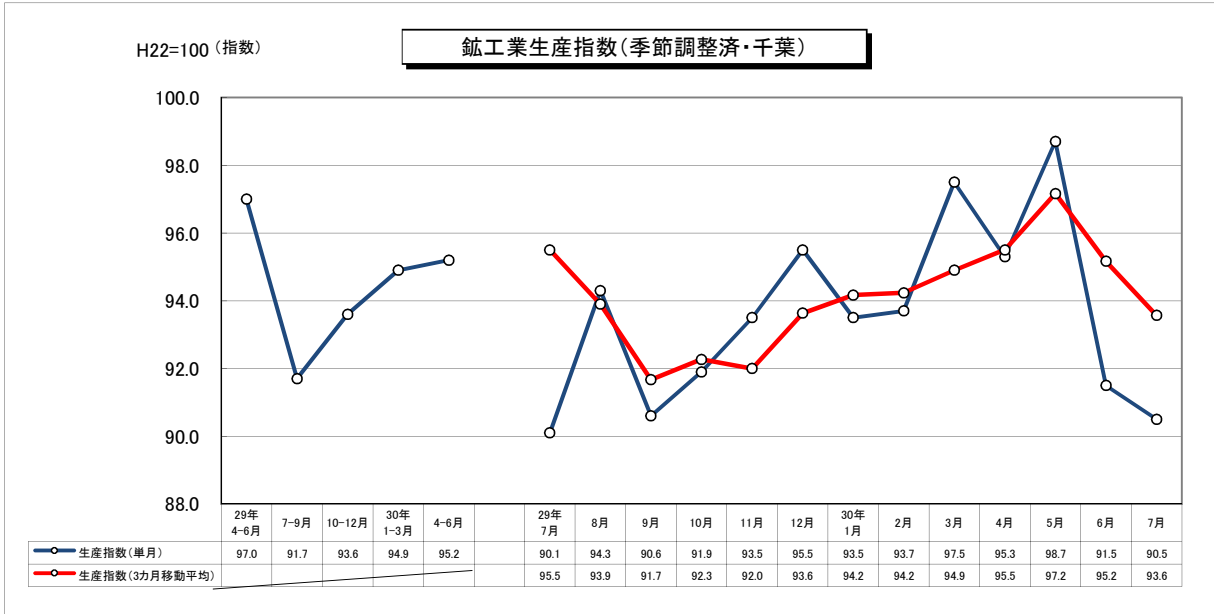


(注) 四半期の金額は一月当りの平均

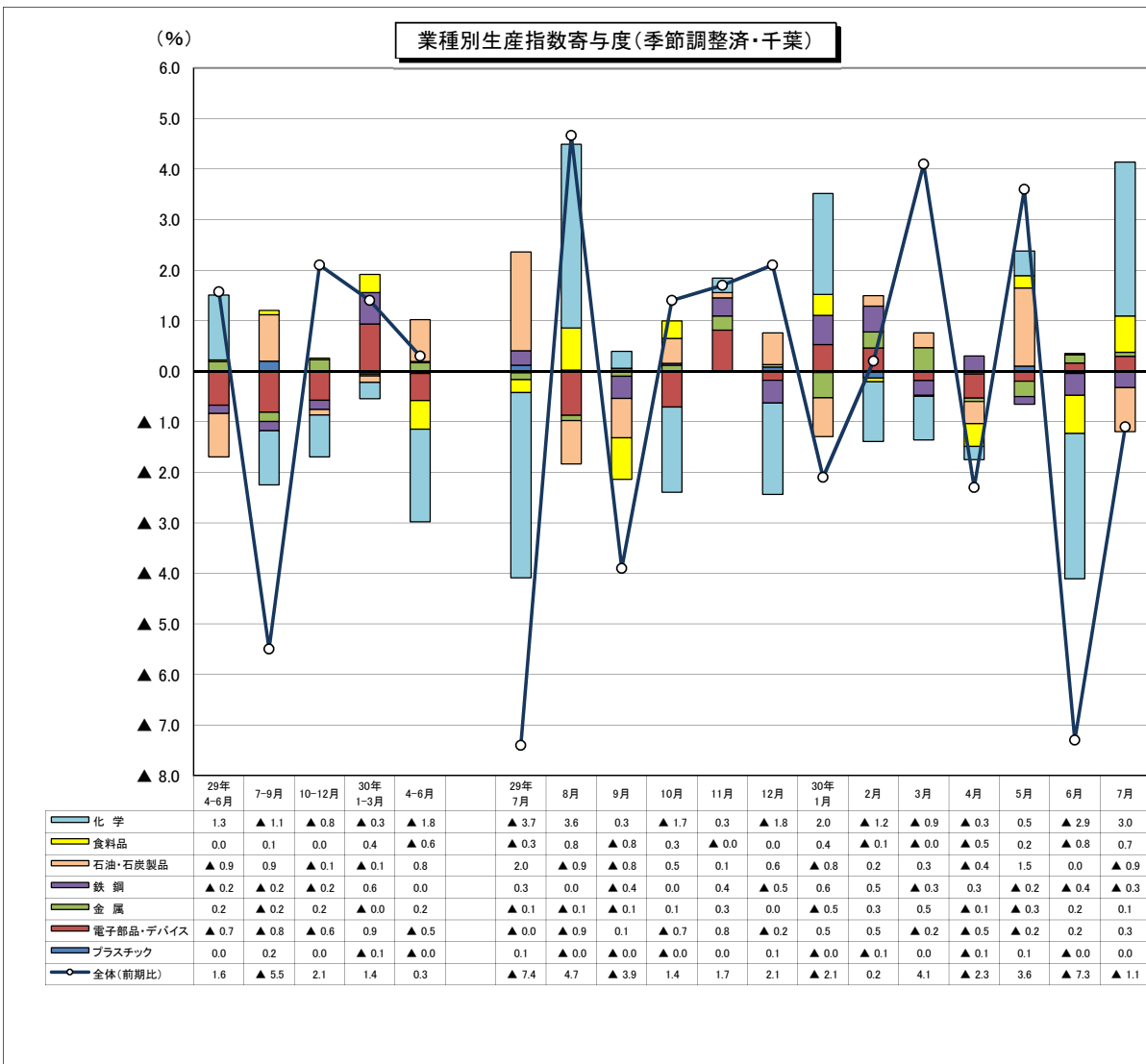
[総務省]

2. 生産活動

緩やかに持ち直しつつある。



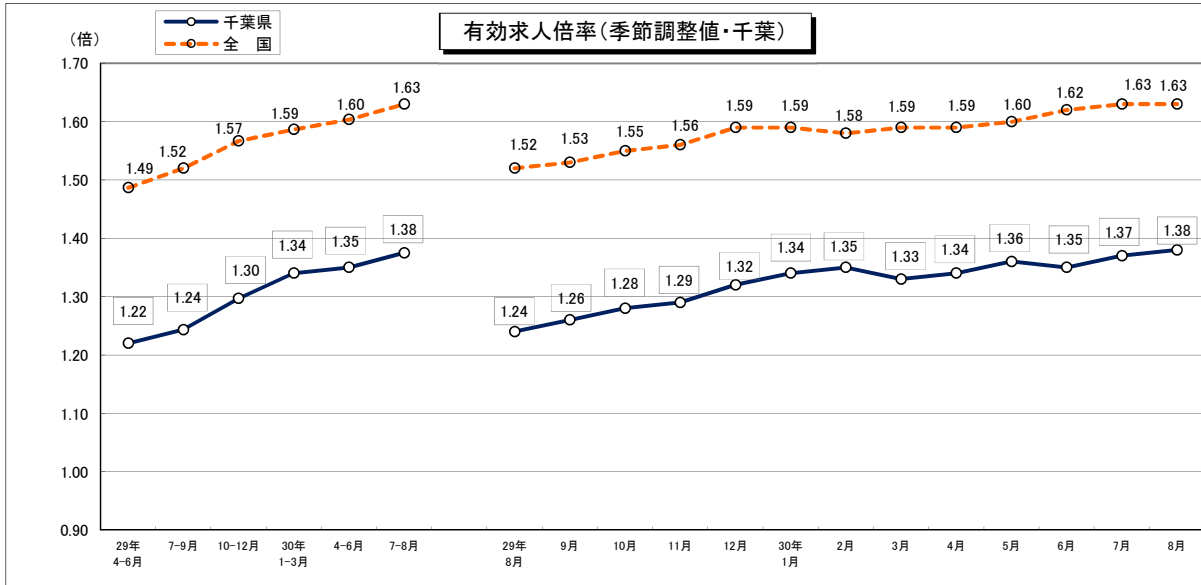
[千葉県]



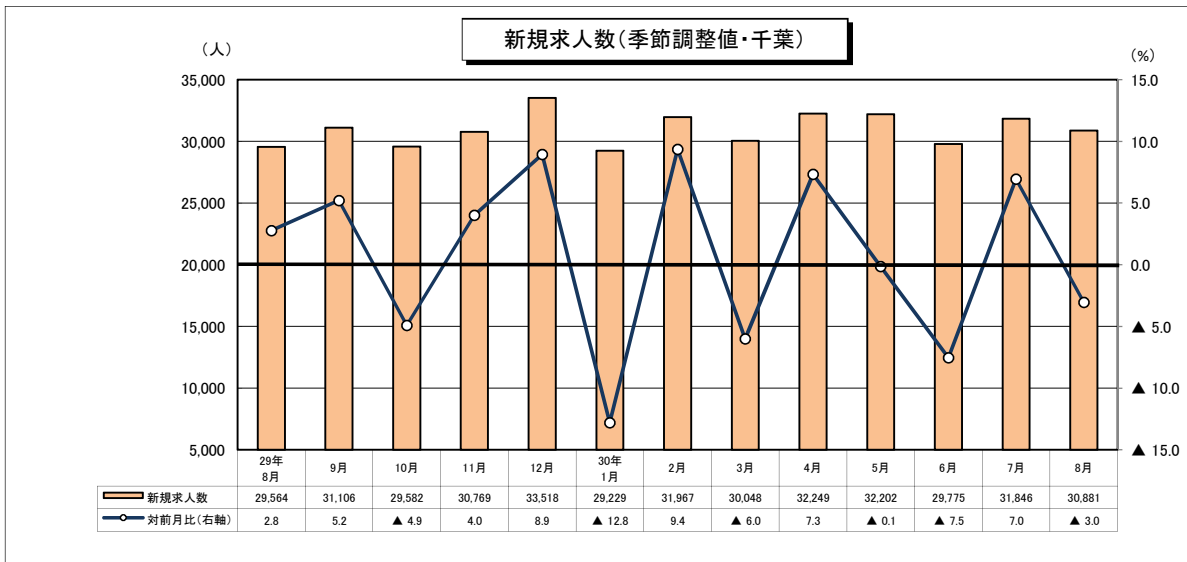
[千葉県]

3. 雇用情勢

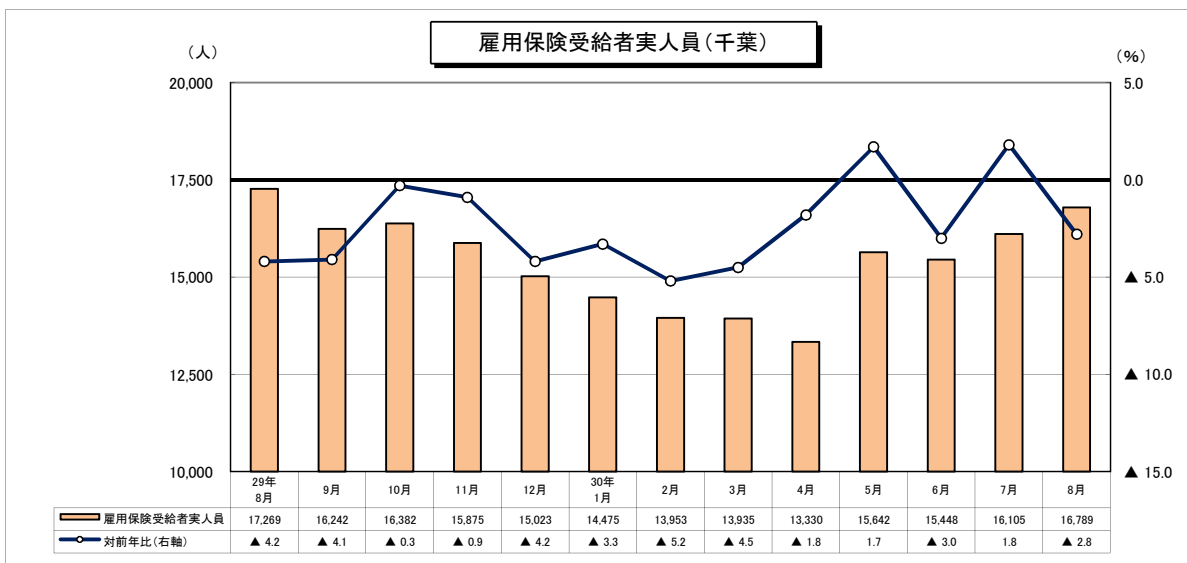
改善している。



[厚生労働省・千葉労働局]



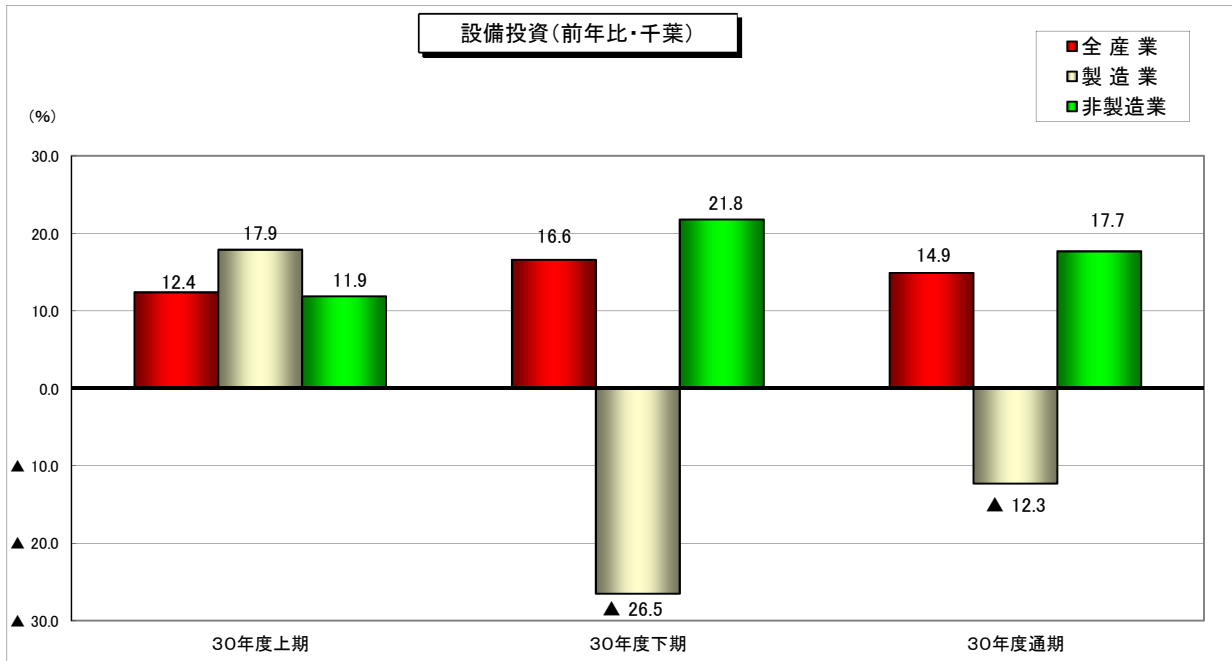
[千葉労働局]



[千葉労働局]

4. 設備投資

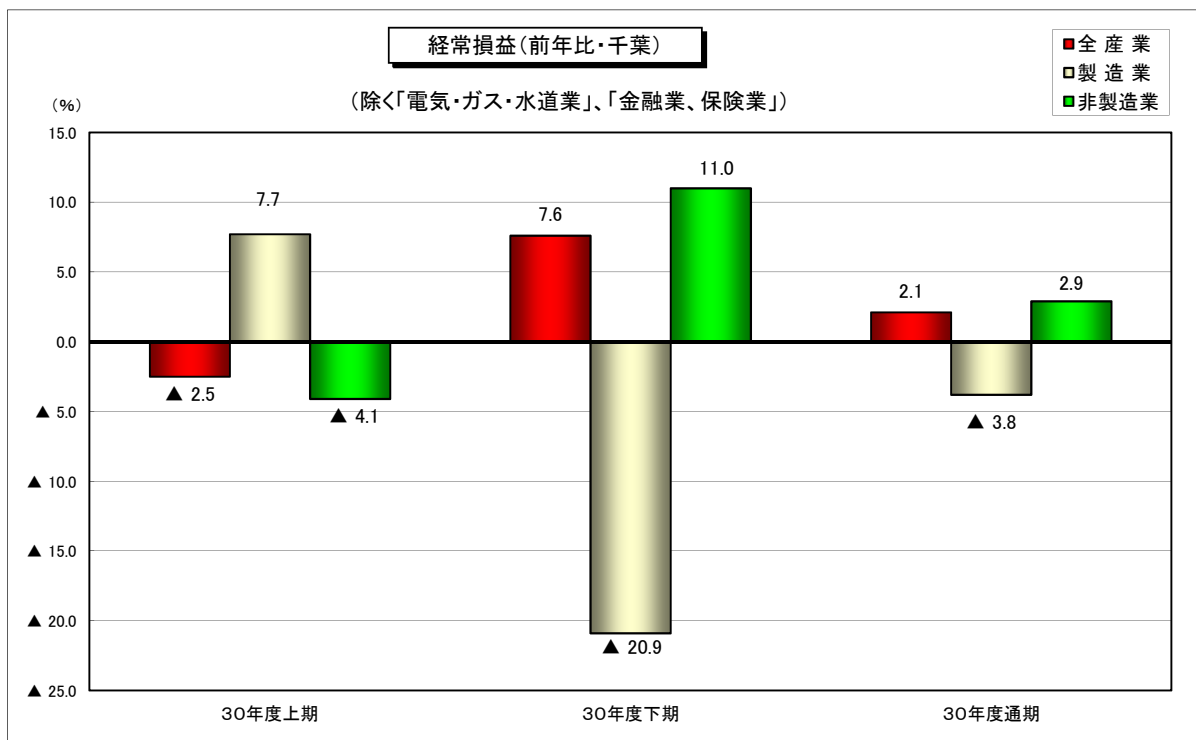
30年度は増加見通しとなっている。



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

5. 企業収益

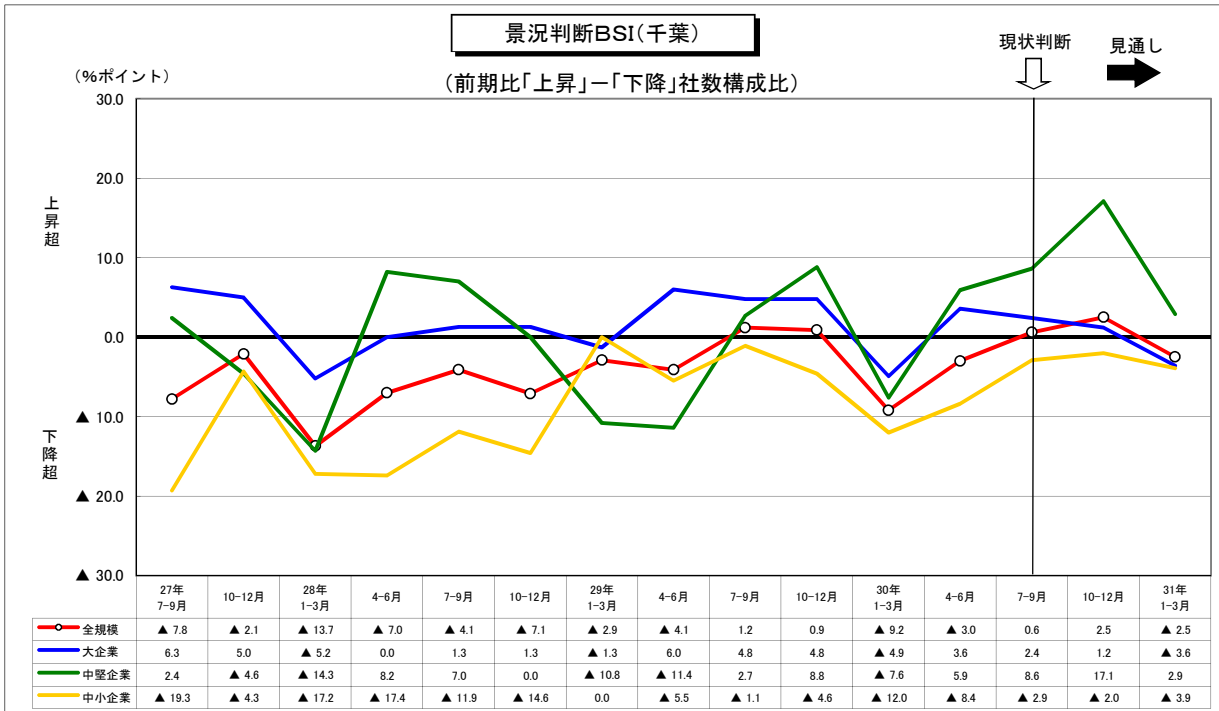
30年度は増益見通しとなっている。



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

6. 企業の景況感

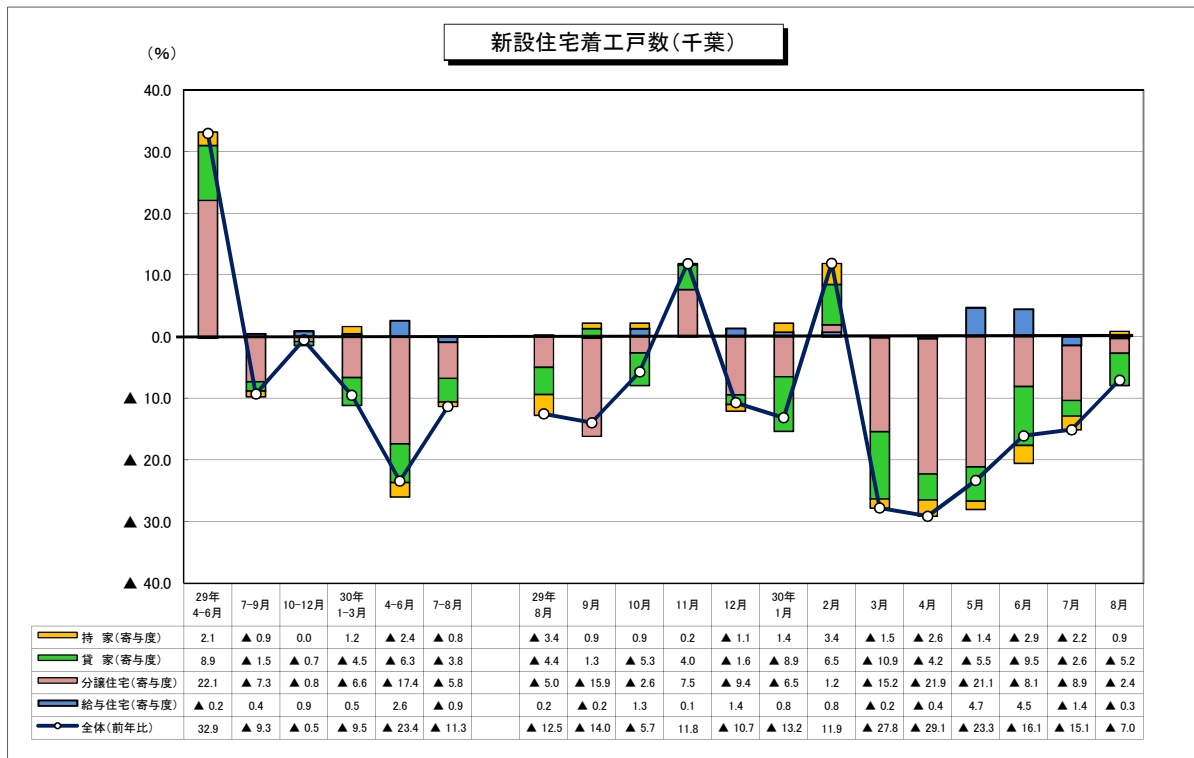
「上昇」超に転じている。



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

7. 住宅建設

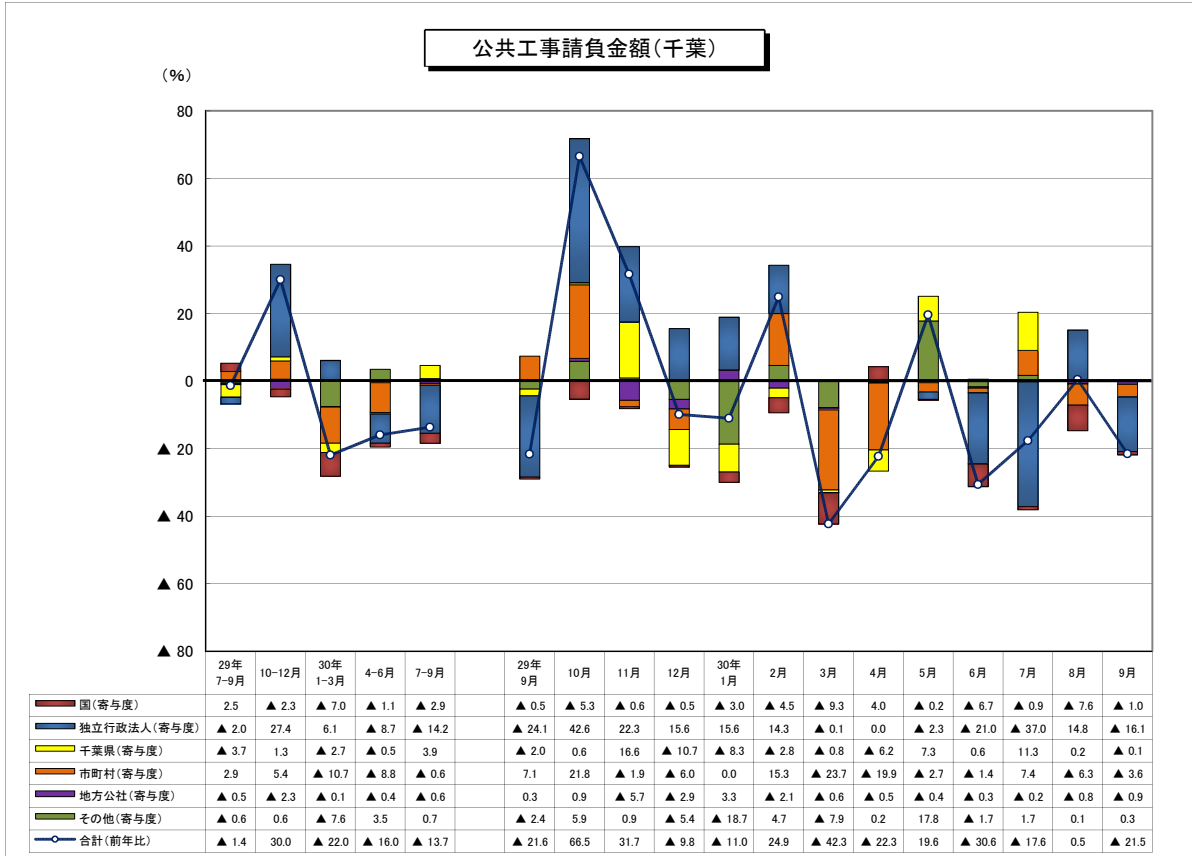
前年を下回っている。



[国土交通省]

8. 公共事業

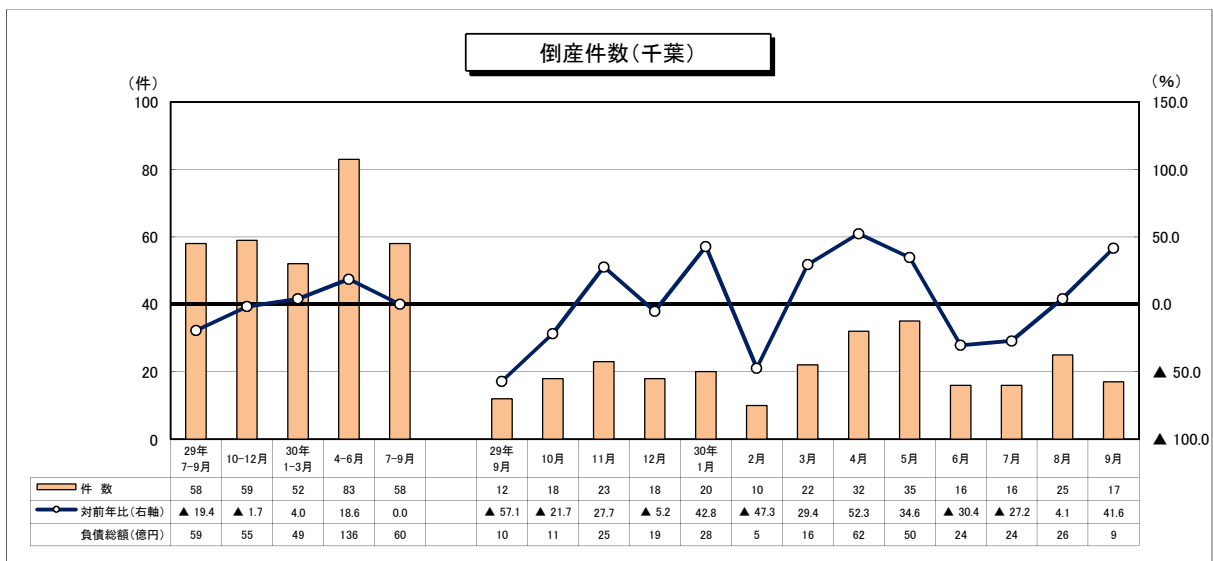
前年を下回っている。



[東日本建設業保証株式会社他]

9. 倒産

前年並みとなっている。



[東京商工リサーチ]